

## 個別補助制度の拡充〈道路メンテナンス事業補助制度〉

- 道路の老朽化対策においては、構造物の点検結果や利用状況(交通量や交通利便性への影響等)などを踏まえ、地域の合意が得られたものについては、施設の集約・撤去に取り組んでいる。
- 中長期的な維持管理コストの縮減を図り、持続可能な道路管理の実現に向けた取組をさらに促進するため、治水効果の向上を通じて地域の安全・安心の確保を図る場合には、改築等の実施を伴わない橋梁単体での撤去(単純撤去)を認めるよう制度を拡充する。

**単純撤去の補助要件** : 要件①に該当する橋梁の撤去事業で、要件②を満たす個別施設計画が策定されていること

### 要件① 治水効果の高い橋梁の撤去

- 橋梁を撤去した場合の治水効果を確認していること



径間長不足、河積阻害による支障事例



桁下高不足による支障事例

### 要件② 実効性ある個別施設計画

- 橋梁の集約撤去など「コスト縮減に関する具体的な方針」と「短期的な数値目標とそのコスト縮減効果」が記載されていること(①、②)
- 当該事業が記載されていること(③)

#### 〇〇市 橋梁長寿命化修繕計画 【個別施設計画】

##### 記載内容

.....

##### ①集約撤去などコスト縮減に関する具体的な方針

##### ②撤去に関する

##### 「短期的な数値目標」と「そのコスト縮減効果」

例) R〇年までに〇〇橋の橋梁を撤去し、  
将来の維持管理コストを〇〇百万円縮減することを目指す

##### ③当該事業の記載

例) 〇〇橋、〇年撤去予定

# 道路メンテナンス事業補助制度

R4年度改正箇所

## 制度概要

道路の点検結果を踏まえ策定される長寿命化修繕計画に基づき実施される道路メンテナンス事業に対し、計画的かつ集中的な支援を実施するもの

## 対象構造物

橋梁、トンネル、道路附属物等（横断歩道橋、シェッド、大型カルバート、門型標識）

## 対象事業

修繕、更新、撤去※

- ※撤去は集約に伴う構造物の撤去や横断する道路施設等の安全の確保のための構造物の撤去、**治水効果の高い橋梁の撤去**を実施するもの
- ※修繕、更新、撤去の計画的な実施にあたり必要となる点検、計画の策定及び更新を含む
- ※新技術等の活用の検討を行い、費用の縮減や事業の効率化などに取り組むもの

## 優先支援事業

- ・ **新技術等を活用する事業※1**
- ・ **長寿命化修繕計画に短期的な数値目標※2及びそのコスト縮減効果を記載した自治体の事業**

- ※1 コスト縮減や事業の効率化等を目的に新技術等を活用する事業のうち、試算などにより効果を明確にしている事業
- ※2 「集約・撤去」や「新技術等の活用」に関する数値目標

## 事業イメージ

- 地方公共団体は、長寿命化修繕計画（個別施設計画）を策定
- 橋梁、トンネル、道路附属物等の個別施設毎に記載された計画に位置づけられた道路メンテナンス事業を支援

## 国費率

国費：5.5 / 10 × δ （δ：財政力指数に応じた引上率）

## 国庫債務負担行為の活用

国庫債務負担行為を可能とし、効率的な施工（発注）の実施と工事の平準化を図る

## 長寿命化修繕計画

〇〇市  
**橋梁**  
長寿命化修繕計画  
【個別施設計画】

記載内容  
・ 老朽化対策方針  
・ 新技術活用方針  
・ 費用縮減方針  
・ 施設名・延長・判定区分  
・ 点検・修繕実施年度  
・ 修繕内容・対策費用 等



【橋梁】

〇〇市  
**トンネル**  
長寿命化修繕計画  
【個別施設計画】

記載内容  
・ 老朽化対策方針  
・ 新技術活用方針  
・ 費用縮減方針  
・ 施設名・延長・判定区分  
・ 点検・修繕実施年度  
・ 修繕内容・対策費用 等



【トンネル】

〇〇市  
**道路附属物等**  
長寿命化修繕計画  
【個別施設計画】

記載内容  
・ 老朽化対策方針  
・ 新技術活用方針  
・ 費用縮減方針  
・ 施設名・延長・判定区分  
・ 点検・修繕実施年度  
・ 修繕内容・対策費用 等



【道路附属物等】

# 道路メンテナンス事業補助制度における優先的な支援

- 背景・概要** 今後の維持管理・更新費の増加や将来の人口減少が見込まれる中、老朽化が進行する道路施設に対応するためには、新技術等の活用促進および実効性のある長寿命化修繕計画の策定促進を図る必要があることから、道路メンテナンス事業補助制度において優先的な支援を実施。

## 優先支援① 「新技術等の活用促進」

### 優先支援対象

コスト削減や事業の効率化等を目的に新技術等を活用する事業のうち、試算などにより効果を明確にしている事業

**従来** 近接・野帳の記入が**必要**

ボートによる近接目視



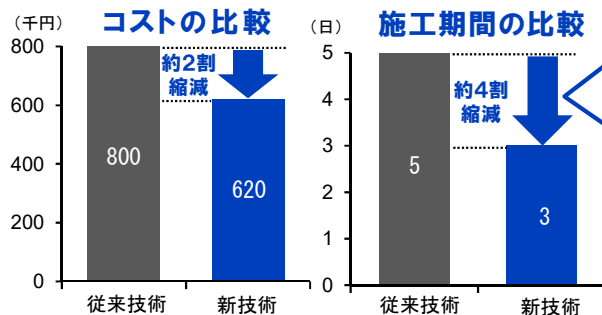
**新技術** 近接・野帳の記入が**不要**

点検ロボットカメラによる写真撮影



※「[点検支援技術性能カタログ\(案\)](#)」に掲載されている技術等の活用

### 効果の試算



・点検ロボットカメラによる写真撮影と画像処理による損傷図作成  
 ・橋上や地上から損傷の把握が可能であり、損傷状況スケッチ・野帳への記入、損傷図作成に係る**コストや施工期間の削減、安全性の向上が図られる**

溝橋10橋での試算

## 優先支援② 「実効性ある長寿命化修繕計画の策定促進」

### 優先支援対象

長寿命化修繕計画において「集約・撤去」や「新技術等の活用」に関する短期的な数値目標及びそのコスト削減効果を記載した自治体の事業

〇〇市  
**橋梁**  
 長寿命化修繕計画  
 【個別施設計画】  
 記載内容  
 ・老朽化対策方針  
 ・新技術活用方針  
 ・費用削減方針  
 ・施設名・延長・判定区分  
 ・点検・修繕実施年度  
 ・修繕内容・対策費用等

【集約化・撤去】  
 (例)  
 以下の取組を実施することで、令和7年度までに〇〇千万円のコスト削減を目指す  
 ・令和5年度までに、迂回路が存在し交通量の少ない〇橋の集約化・撤去を目指す

【新技術等の活用】  
 (例)  
 令和7年度までに、管理する橋梁の内〇〇橋で新技術を活用し、従来技術を活用した場合と比較して〇千万円のコスト削減を目指す。

具体的な取り組み内容や期間、数値目標の記載

### 【記載事例】

集約化・撤去	令和2年度点検の結果、 <b>迂回路が存在し集約が可能と考えられる3橋のうち判定区分Ⅲとなった1橋について、今後、周辺状況や利用調査を基に、令和7年度までの集約化・撤去を目指す</b> ことで、更新時期を迎える令和17年度までに必要となる <b>費用を約6割程度削減することを目指します。</b>
新技術等の活用	<b>2025年(令和7年)までの5年間に、定期点検を実施する橋梁3橋については、長大河川及び水面部、又は高橋脚等の損傷確認で、費用の削減や事業の効率化等の効果が見込まれる新技術(あるいは新技術に類する技術)を活用し、200万円のコスト削減を目指します。</b>